

令和5年度 学校自己評価（教職員評価）														
（評価） A＝よくできた B＝ややできた C＝あまりできなかった D＝全くできなかった														
領域	評価の観点	評価項目	実践目標	令和5年度自己評価						令和4年度		今年度の成果	次年度への課題と取組み	学校関係者評価委員の提言
				A	B	C	D	平均	評価	平均	評価			
学校運営	1 開かれた学校づくり	学校説明会の実施	生徒による説明のウエイトを増した説明会の実施	30	9	0	0	3.8	A	3.7	A	・オープンハイスクールは、生徒主体での取り組みと各部の熱量のある説明により、かなり質の高いものであった。参加者のアンケートでも高い評価を得た。午前・午後の二部構成とすることで参加機会を増やすことにつながった。7月・9月・11月すべての日程で実施することができた。 ・「北高だより」は8月号を除く月に、生徒の様子を発信することができた。 ・「北朋」については総務役員のみさんが中心となって、年2回発刊することができた。 ・ミマモルメを導入し、遅刻・欠席連絡を円滑に行えるようになり、メール配信の機会を多くすることができた。	・引き続き、ミマモルメでの欠席、遅刻連絡を実施し、より良い利用方法を模索したい。	○新高校に移行しても地域との交流を続けてほしい ○生徒会や部活動単位の少人数での交流だけではなく、全体としての交流の機会があれば、本校の良さをもっと理解してもらえるのではない か ○広報の手を緩めると志願者は減るので引き続き取り組みをしてほしい
		広報活動の充実（教育活動の広報）	学校紹介パンフレットの更新 「北高だより」の定期的発行 学校HPの更新 公開授業の実施	27	11	1	0	3.7	A	3.5	A			
		広報活動の充実（ニーズ等調査）	中学校訪問の実施、および中学生・保護者のニーズ把握	14	23	2	0	3.3	A	3.2	B			
		地域交流の推進	地域行事への参加 ボランティア活動の実施（全校生による勤労体験等） 福祉施設・幼児施設との交流	20	18	1	0	3.5	A	3.2	B	・音楽園の夏祭り、餅つき大会が開催され、生徒会を中心に、運動部の協力を得ながら参加できた。地域の方からも好評であった。 ・吹奏学部、ダンス部が地域のイベントに参加し、日頃の練習の成果を発表できた。	・コロナ禍以前の取組に戻ることから、更に地域貢献の幅を広げたい。	
		小学校児童との交流	生徒による小学校出前授業の実施	22	15	1	0	3.6	A	3.6	A	・教育を進路に見据える生徒が主体的に取り組み、進路選択に役立つ時間となった。	・引き続き、効果的なものとなるよう取り組んでいく。	
	2 生徒指導	生活習慣の確立	挨拶・マナー遵守を始めとした基本的生活習慣の確立	8	25	6	0	3.1	B	2.9	B	・毎朝最寄りのバス停留所まで行き、通学路の安全確保とともに、遅刻の防止に努めた。 ・「北高生のマナー」は廃止し、「西宮北高校 校則について」の内容を推敲し、改訂したものをホームページに掲載した。	・積極的に挨拶する生徒が増えてほしい。今後は、生徒会の生徒に協力を求め「挨拶運動習慣」など実施していきたい。	○通学経路の確認と検討を進めてほしい ○生徒は比較的气元で落ち着いている
		生徒指導体制の推進	いじめに関するアンケートの実施、及び対策の推進	22	17	0	0	3.6	A	3.4	A	・校則検討委員会を立ち上げ、生徒会役員主体で、校則の見直しに向けて継続して取り組んでいる。	・発展的統合に向け、校則の検討を進める。	
		学校行事の充実	文化祭、体育大会、2学年生活訓練総合宿等、学校行事の円滑な実施	21	17	1	0	3.5	A	3.5	A	・新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、すべての学校行事はほぼ制限せず、コロナ禍前に戻して文化祭等の学校行事を生徒会主体で開催した。	・文化祭における模擬店をどう戻していくか検討が必要である。	
		生徒の自主性の向上を目指す課外活動の充実	体験入部・部長会議開催・掲示板の活用などによる部活動の活性化	10	23	6	0	3.1	B	2.8	C	・いきいき部活動の方針のもと、限られた時間で効率的な部活動運営に取り組んだ。 ・茶道部が2年連続で全国大会、水泳部も近畿大会に出場した。	・入部加入率を上げるとともに、中途退部者をいかに減らすかが課題である。	
	3 進路指導	高社連携の推進	県庁・民間インターンシップの実施 ふれあい看護体験・ふれあい育児体験の実施	11	17	11	0	3.0	B	3.1	B	・看護体験や育児体験は受入施設との調整を進めている。	・関連施設等の訪問については、相手先の様子を確認しながらの調整が必要である。	○進路講演会の講師は、理念もデータもしっかりしており、非常に良い人選である
		進路意識の向上	社会人による講演会、卒業生進路を語る会の実施 進路ガイダンス・模擬授業の実施	22	17	1	0	3.5	A	3.4	A	・詳細なデータ分析を行い、職員会議で共有するとともに、生徒・保護者に対しても、文理選択や科目選択で適切な選択ができるように積極的に提供した。 ・「進路の葉」では、1年間を通して葉を活用できるよう、模試の記録と目標のページを作成した。 ・3年生は最後の最後まで伸びることを伝え、生徒の可能性を信じて職員一丸となり、生徒の進路支援を行った。 ・全校生に対して、進路講演会を実施し、自らの生き方やキャリア形成について考える機会を設けた。 ・模試の分析を業者・学年・進路の教員が行い、活用し、1年2年共に、模試の偏差値が向上した。 ・PTAとの連携について、外部講師による保護者向け進学講演会を実施した。 ・学年教育懇談会等において、本校の指導方針と具体的な進路指導について説明した。	・スタディーサポートを3年通して実施することで、生徒の学習習慣や学習へ捉え方を向上させる。 ・模試を活用した教職員のPDCAサイクルを回している。	
		P T A と の 連 携	P T A 進学講演会の実施、進路相談の充実	15	23	1	0	3.4	A	3.3	B			
	4 教職員の資質向上	教員の指導力向上	公開授業・研究授業の実施	13	20	6	0	3.2	B	3.3	B	・オープンルーム週間を1学期と2学期にそれぞれ2週間実施した。今年度は小グループを作らず、教科をまたいだ様々な視点での見学を目指した。1、2年生においてはiPadが導入されており、ICT活用の方法を各教員が模索しよりよい授業作りに向けチャレンジしている姿が見られた。	・オープンルームや研修会への参加率を上げる呼びかけ ・時期にとらわれないオープンルーム週間の実施やiPadを用いた授業の学校全体での取り組み ・交流の機会を更に周知徹底していく。	
		小・中学校教員との交流	小・中学校教員との合同研修会実施	3	8	26	1	2.3	C	2.7	C	・音楽園中学校校区の小、中学校が実施している合同研修会に参加し、小、中学校の指導法について研修した。		
	5 環境整備	落ち着いた学習環境の整備	校内整備・美化の推進	14	20	5	0	3.2	B	3.3	B	・中館の老朽化が目立っているが、長寿命化の工事として廊下・階段の床が張り替えられるなど、少しずつ快適な環境が実現されつつあるように思われる。 ・清美委員が中心になって教室の清掃を徹底した後、廊下・教室にフックスがけを実施した。	・今後も落ち着いた学習環境の整備に力を入れた。	
教育課程	6 自ら学び自ら考える力の育成	問題解決的な学習の展開	主体的・対話的で深い学びの実施、小論文指導	12	19	6	1	3.1	B	3.1	B	・総合的な探究の時間では、年間計画に基づき、キャリア教育や進路実現に向けて、小論文指導を積極的に行った。	・これまでの小論文の取り組みと探究の実践についての整理の検討が必要。	○週末課題のあり方について、更に良いものとなるよう引き続き検討してほしい ○個人としての課題や小テストだけではなく、班をつくって競わせるなど意欲をかき立てる工夫としてはどうか
		生涯学習の視点に立った実践能力の育成	読書活動の推進（ビブリオバトル、読書マラソン）	17	16	5	1	3.3	B	3.2	B	・図書室の協力により実施したミニビブリオバトルは、特色選抜入学生の相互理解にも役立った。	・ビブリオバトル以外にも読書活動を推進する方策の検討を進める。	
	7 基礎・基本の定着	指導方法の工夫による生徒の学力向上	初期指導の充実、週末課題の推進、補充・補習の推進	18	18	3	0	3.4	A	3.2	B	・(1年)学力定着のため、週末課題を設け、英語は水曜日に国語は金曜日に朝のSHRで小テストを実施している。課題の期限内提出、小テストの十分な準備と合格が難しい生徒には、放課後の指導などで丁寧に対応している。 ・(2年)平日および休日における家庭学習の習慣づけのため、週末課題の出題や小テストの実施などの取り組みを行った。多くの生徒が積極的に取り組んでおり、模試の結果や英検の受験の様子等を見ていると、その成果も徐々に表れてきている。	・意欲的に取り組めない生徒がいることも確かであり、そういった生徒たちにどのようにアプローチしていくかが、今後の課題である。	
		評価規準の設定	観点別学習評価を進め、指導と評価の一体化を図る	10	23	6	0	3.1	B	3.0	B	・新教育課程の円滑な移行と本校の特色を持った教育課程の編成に取り組んだ。 ・成績会議で情報共有を図ることで、コンセンサスを得る取組をしている。	・共通テストについても、引き続き各教科で対応できるように検討していきたい。	
		自主学習の推進	家庭学習習慣の確立	6	25	8	0	2.9	B	3.0	B	・(1年)学力定着のため、週末課題を設け、英語は水曜日に国語は金曜日に朝のSHRで小テストを実施している。課題の期限内提出、小テストの十分な準備と合格が難しい生徒には、放課後の指導などで丁寧に対応している。 ・(2年)平日および休日における家庭学習の習慣づけのため、週末課題の出題や小テストの実施などの取り組みを行った。多くの生徒が積極的に取り組んでおり、模試の結果や英検の受験の様子等を見ていると、その成果も徐々に表れてきている。	・意欲的に取り組めない生徒がいることも確かであり、そういった生徒たちにどのようにアプローチしていくかが、今後の課題である。	
		8 個に応じた学習指導	指導形態の工夫	効果的な習熟度別・少人数授業の実施・生徒との実態に応じた科目設定	14	17	7	1	3.1	B	3.2	B	・1年生より英語重視コースと数学重視コースを設け、自己実現に向けた目標設定を促している。 ・科学探究類型では「科学研究」、社会探究類型では「国際事情研究」を履修し、自己探究を深めている。 ・英語・数学の少人数授業は例年どおり実施できた。	
	生徒の状況把握		生活状況調査の実施、生徒面談の充実 効果的な模試結果の実践と情報等の共有	16	21	2	0	3.4	A	3.2	B	・年度当初に面談週間を設け、生徒の理解に努めている。 ・中学校からの引き続き事項について、教員間での情報共有を行っている。	・教師間での生徒情報の共有を密にしてい	
	生徒の学力向上		北高手帳、スタディサブリの活用	10	19	10	0	3.0	B	3.0	B	・北高手帳、スタディサブリの活用について、入学前の手帳配布時に、北高手帳の意義と活用法をプリントを配布して説明した。 ・スタディサブリを全員導入している1年生については、学年の全面的な協力により活用が促進された。	・「北高手帳」や「スタディサブリ」の活用促進のためのさらなる工夫が課題である。	
	課題教育	9 安全教育	安全意識の高揚	教職員及び生徒を対象とした心肺蘇生法・A E D講習会の実施	22	16	1	0	3.5	A	3.4	A	・救急救命法講習会を全職員と部活動代表者を対象に実施した。 ・防災学習は、「地震に備えて」をテーマに、シェイクアウト訓練と併せて実施した。 ・薬物乱用防止学習は、誘惑の多いとされる夏季休業中の前に、兵庫県警察本部少年課から講師を派遣していただき、全校生徒を対象に体育館で講演会を実施した。	
防災意識の高揚			防災訓練・防災学習の実施	17	20	2	0	3.4	A	3.2	B			
1 0 人権教育		確かな人権意識と態度の育成	人権意識を啓発する人権学習H Rの実施 人権講演会の実施	19	19	1	0	3.5	A	3.1	B	・今年度は「ホームレス問題」について講演を聞き、研修を行った。 ・「誰もがホームレスになり得る」という内容は、生徒にとって興味を引くものであり、啓発に有効であった。	・多種多様な人権課題のうち、生徒たちに身近で理解しやすいテーマをどう示していくかが課題である。	
1 1 特別支援教育		一人一人の多様な教育的ニーズに応じた教育の充実	キャンパスクラウドと連携を密にした教育相談 特別支援教育コーディネーターを中心とした特別な支援が必要な生徒への指導	17	21	1	0	3.4	A	3.1	B	・キャンパスカウンセリングの積極的な利用により、問題解決に向けてきっかけを作ることができた。	・教員が特別な支援についての知識や理解を深めるための一層の研修が必要である。	
1 2 地域連携		体験的・実践的な教育活動の推進	生徒会・部を中心とした地域行事へのボランティア活動の実施 地域の老人介護施設や幼稚園への訪問活動の実施	13	16	10	0	3.1	B	3.2	B	・生徒会やダンス部、吹奏学部が地域のイベントに参加し、貢献できた。	・生徒会を中心に、地域の清掃活動を進めていく。	○新高校に移行しても地域との交流を続けてほしい
1 3 学校の特色化		特色選抜入学生の活動の充実	1 学年での取り組み内容の精選 探究活動及び成果の発表	21	13	5	0	3.4	A	3.4	A	・テーマ研究には昨年同様、教育と探求社の「インターン」を採用した。事業内容がわかりにくい企業もあったが、生徒たちはloadをうまく活用し、限られた時間で相応レベルの発表ができた。 ・1 学年の夏季補習とのセットで特色選抜入学生のみを対象とする夏季特別講座を実施した。数学の宿題攻略講座、英語のスピーキング講座、国語の短歌創作講座をいずれも少人数で実施し、生徒の満足度も高かった。 ・特色化推進部教員による個人面談を6月と11月に実施した。特色選抜入学生の学習や進路・類型選択のサポートだけでなく、生徒個々への理解が深まり、その後の探究活動等の指導の面でも有効であった。 ・入学前の手帳配布時に、北高手帳の意義と活用法についてプリントを配布して説明した。 ・8月2日～3日にTOKYO GLOBAL GATEWAYでのプログラムに参加する「TGG語学研修」を実施した。参加生徒11名(3年5名、2年2名、1年3名)。事前指導3回、事後指導1回。生徒の満足度は非常に高かった。	・特色選抜入学生に対するプログラムの精選。 (生徒・職員の負担軽減) ・部の事業全般や、特色選抜入学生の活動についても、全校的な合意や協力を、いかんして得ていくか。 ・来年度のオーストラリア語学研修を企画し、旅行会社を確定した。近日中に募集要項を配布する予定である。	○発展的統合に当たり、生徒数が増えるというのは教員数も増え色々なことができる良いタイミングである ○新しいことに取り組もうとする特色化推進部とKPプロジェクトの2つの部門を持っているところは強みである ○海外研修の訪問先を色々と検討してはどうか
	各類型および全校の特色ある事業の推進	英語力向上プロジェクトの実践 施設訪問・見学の実施 特色化推進部を中心とした特色類型の取り組みの検討 理科観察実験の内容充実	18	17	3	1	3.3	A	3.3	A				

※ 評価はA～Dの4段階評価（教職員向け）A=よくできた B=ややできた C=あまりできなかった D=全くできなかった
※ 評価値＝(4×Aの人数＋3×Bの人数＋2×Cの人数＋1×D人)／全体人数（小数第2位四捨五入で表示） 評価 A≧3.3 B≧2.9 C≧1.6 D<1.6